

新潟県中越地震における支援活動

口腔保健推進学分野 葎原明弘

昨年10月23日、新潟県中越地震が発生した。震度7にも達する大地震であった。新聞やテレビでも報道されているように死傷者は40人に達し、地震発生当初の避難民は10万人を越えた(図1)。

地元小千谷市を中心とした魚沼地区では、家屋への被害に加え水道をはじめとするライフラインが遮断されたことから、歯科診療が事実上不可能となった。地域住民にとっては、歯科診療を受けることができないことに加え、口腔衛生状態の悪化から、特に高齢者や要介護者における身体への影響も懸念される事態となった。

このような中、我々は、新潟大学医歯学総合病院支援チームおよび新潟県歯科医師会が中心となった合同支援チーム(新潟県歯科医師会、新潟大学および日本歯科大学新潟歯学部が参加)に分かれ被災住民に対する歯科診療および口腔ケア支援を実施することとなった。特に避難されている方も多く、歯科診療所に大きな被害の出た小千谷市および川口町を中心に活動を行った。しかし、地震発生後も大きな余震は断続的に続き、安全性を考えながらの支援活動であった。また、新潟県歯科医師会館に歯学部口腔生命福祉学科の大内氏および口腔保健推進学分野の清田氏(平成16年12月21日より県福祉保健部健康対策課に勤務)が常駐し、歯学部の窓口としての私と連絡を取りながら

支援プログラムを作成していった。

支援は、小千谷総合保健センターでの歯科診療班および避難所、施設への訪問班に分かれて実施された。特に避難所、施設への訪問班は、草の根的に需要を把握しながらきめ細かな対応を行うこととなった。具体的には、小千谷総合保健センターでは、ポータブルユニットを用い急性症状の緩和に主眼をおいた歯科診療が実施された。一方、避難所に避難されている方に対しては、歯科相談、義歯清掃、および高齢者への口腔ケアを実施した(図2)。その際には、地元歯科医師会、小千谷総合病院の先生方、小千谷市の保健師さんらの多大な協力を得ることができた。

地域に開かれた病院でありたいと願っている我々にとって今回の新潟県中越地震の被災者に対する支援は当然である。下条病院長、宮崎副病院長、山田学部長の指示のもと、全職員の協力により大きな成果を生むことができた。約1ヶ月に渡る活動の中で、参加した職員は延べ60人に達した。地元住民を中心に据えた、実りある支援を行うことができたと自負している。

最後に、お忙しい日常業務の中で今回の地震支援にご協力いただいた職員の方々に感謝申し上げます。



図1 新潟県中越地震に見舞われた小千谷市の状況



図2 小千谷総合保健センターでの診療風景